

材料工学委員会将来展開分科会 (24期・第2回)

1. 日時：平成30年 11月1日 (木) 15時～17時
2. 会場：日本学術会議5回5C-(2)会議室
3. 出席者：乾晴行(委員長)、大貫惣明(副委員長)、中野裕美(幹事、記録)、松田由貴、古原忠、塙隆夫、須山章子、五十嵐正晃、小出康夫、井上純哉、岸本康夫、山口周(オブザーバー)、吉田豊信(オブザーバー)、大竹尚登(説明者) スカイプ：尾崎由紀子、大出真知子、津崎兼彰(敬称略)

4. 議事

1) 予算について

議事に先立ち、事務局より、予算枯渇により旅費等の支給が一時凍結される旨の説明があり、理解が求められた。

2) 経緯報告

乾委員長より、本分科会の今期活動内容に関して、これまでの経緯の報告があった。以下の3項目を軸にして活動をすることが審議された。

- ・材料工学教育の将来について
- ・大学における参照基準の設定と展開
- ・関連学会との連携

3) 話題提供

大竹尚登教授(東工大)より「総合イノベーション戦略と材料教育」について話題提供をいただいた。

内容：三島学長のリーダーシップのもと、教育、研究、ガバナンス改革が行われた。中でも、教育改革については、3つの柱として「世界トップスクールとしての教育システム」、「学びの刷新」「大胆な国際化の推進」を掲げ、行われた。さらに、未来社会 DESIGN 機構を新設し、豊かな未来社会のビジョンを提案し、社会貢献をする組織を立ち上げたことなど、東工大の大学改革が詳しくご紹介され、多くの話題が提供された。

教育組織の柔軟性、学生の知財、予算に関すること、レガシー分野の確保、博士後期課程の日本人比率、教員ポストの全学管理、その他多くの質疑応答、意見交換が活発になされた。

4) 次回の日程

平成31年1月31日(火) 13時～15時 日本学術会議にて開催予定ではあるが、開催は現時点で未定であり、予算の状況により判断する。

5) その他

学部での参照基準に関する報告書(平成26年9月1日)を検証しながら、今期は大学院での参照基準の作成を進めていくことが委員長より説明された。

以上

配布資料1 前回議事録

配布資料2 統合イノベーション戦略

配布資料3 話題提供「大学改革についての一考察 ー東工大を例としてー」